

1 題材 組み立て方「進め」

- 2 目標
- 「進」の組み立て方を理解することができる。
 - 「しんによう」の書き方を理解することができる。
 - 学習した事柄を日常生活の中に生かしていく態度を身につけることができる。

3 指導計画(全3時間)

第1時 「進」の字形を整えて書くために、「しんによう」を練習する。(本時)

第2時 字形に気をつけ、字配りよく「進め」を書く。

第3時 毛筆で「進め」のまとめ書きをし、学習したことを生かして硬筆でいろいろな組み立てからなる文字を書く。

4 指導上の立場

- 高学年における書写の指導では、「文字の形、大きさ、配列などを理解して、読みやすく書くこと」「毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組み立て方を理解しながら、文字の形を整えて書くこと」「毛筆を使用して、字配りよく書くこと」がねらいである。

5年生の学習では、これまで「上下の部分の組み立て方(星)」「筆順と字形(登山)」「筆使いと字形(かえで)」「漢字とかなの字配り・配列(花さく町)」の学習に取り組んできた。本題材では、「しんによう」の筆使いを学習し、「進め」の組み立て方を理解することをねらいとしている。いろいろな部分の組み立て方を学ぶことで字形の整え方を身につけ、文字の中心や大きさに気をつけて整った文字を生活の場で書くことができる力を育てていきたい。

また、客観的に自分の文字を観察し、課題を発見し、その課題解決のための方法を考え、自ら学習を拓いていくようにさせたい。

- 本学級の児童の多くは、字を書くことや、書写の時間を好み、書写の学習に対して意欲的に取り組むことができる。さらに、書写で学習したことを、手紙や年賀状、大人になって就職してから等いろいろな場面で生かしたいという思いももっている。

しかし、児童は日常生活の中で、ノートなどの文字を正しくていねいに書こうとする意識はあるものの、「組み立て方を考えて書く」ということに対しては、常に意識して書いているとは言い難い。

そこで、組み立て方ということに目を向けさせ、日常の書く活動に生かそうという意欲を育てるため、本題材を設定した。

- 本校の研究主題「生きる力を育む書写学習のあり方—すすんで取り組み、書く喜びのもてる学習をめざして—」に迫るため、高学年では「自己の課題をもち、進んで練習方法を工夫して書くことができる子ども」「学んだことを生かし、読み手を意識して書こうとする子ども」をめざす児童像としている。

本時では、「進」の提示資料を比較することで、一人ひとりが読みやすい文字を書くための課題を明確にもち、進んで練習方法を選択して練習に取り組むことができると考える。また、課題ごとに練習用紙、水書用紙、ビデオを準備し練習コーナーを作ることで、友達がどのように書こうとしているか、どのような工夫がなされているか、自分とは違ったよさは何かを感じることができるようにしたい。そして、相互に励まし合うことで、書くことの喜びを感じることができるようにし、児童の学習意欲の向上に努めていきたい。

また、TT で指導することにより、一人ひとりの課題に沿った評価や支援ができるようにしたい。

5 本時案（第1時）

目標		・ 「しんにようの」書き方を理解し、「進」の組み立て方に気をつけながら書くことができる。 ・ めあてをもとに自己評価や相互評価をし、自分や友達の伸びに気付くことができる。		
学習活動		教師の支援		準備
つかむ	1 めあてをもつ。	T1	T2	「進」の提示資料
		○ 「進」を空書し、正しい筆順を確認できるようにする。 ○ 試し書きをし、手本と比べて難しいと感じたところに印をして自分のめあてを意識することができるようにする。 ○ 字形の違う「進」を提示し、どんな点に気をつけて書けばよいか、課題に気付きやすくする。	○ 自分のめあてを見つけにくい児童には、手本との比べ方を助言するなど、個別指導をする。	
		組み立て方 ・ 「進」は「しんによう」と「佳」から成る。 ・ 「進」は「しんによう」を「佳」の右端辺りからはらいはじめる。 ・ 「しんによう」は、十画目が左に傾くように、十一画目は右下に下がるように書く。十二画目の始筆が、十画目の終筆に重なるように書く。 字形 ・ 「進」は二画目が文字の中心になる。 ・ 「佳」の横画の間隔をそろえる。		

つかむ		○ コンピュータを操作することにより、「しんによう」の組み立て方を意識し、課題に気付きやすくする。 ○ 字形よく書くために、自分のめあてを意識してカードに書くことができるようにする。	○ めあてをもちにくい児童へ個別に助言を行う。	コンピュータ プロジェクター 学習カード
		組み立て方に注意して書こう。		
			○ 筆使い、文字の形を意識して範書をする。	
すすめる	2 練習する。	○ めあてに沿った練習ができるように練習用紙を用意する。 ○ 水書コーナーを準備し、児童が繰り返し練習できるようにする。 ○ 穂先の動きをとらえた映像を繰り返し流すコーナーを準備し、筆使いが確認できるようにする。 ○ 自分の課題解決に生かせる練習方法が選択できるように助言する。 ○ 「しんによう」は、穂先の弾力を生かしてリズムよく運筆するように助言する。		練習用紙 水書用紙 水書黒板 ビデオ
確かめる	3 まとめをする。	○ 自分のめあてを再確認してから、まとめ書きをするように助言する。 ○ 試し書きと比べ、お互いの上達ぶりやがんばりを認め合う場をつくり、次時への意欲がもてるようにする。 ○ 学習カードに反省を書くことで、自分の文字を問い直し、自分の変容に気付くことができるようにする。	○ めあてに沿って伸びたところをしっかりと称揚し、どの児童にも充実感がもてるように配慮する。	学習カード

確 か め る	4 次時の学習を 知る。	○ 学習したことを硬筆で練習することにより，日常化を図る。 ○ 次時の学習へ向けて課題を確認する。		
評価	・ めあてに沿って練習方法を選択し，進んで学習に取り組むことができたか。 ・ 「しんしょう」の筆使いに気をつけ，正しく書くことができたか。 ・ 自分や友達の伸びを見つけることができたか。			